



JAA通信

(Japan Autonomous Academy)

日本自治 ACADEMY 会報誌

Vol.8 2013年5月発行

(ホームページアドレス)

<http://www.japan-a-academy.jp/>

[発行]

NPO法人 日本自治ACADEMY

北海道下川町西町88番地2(株)谷組内

郵便番号 098-1205

Tel:01655-4-2595

Fax:01655-4-2596

E-mail:info@japan-a-academy.jp

Contents

巻頭写真

「環境未来都市構想推進国際フォーラム」**1**
(下川町)

講演要旨

(フォーラム「アジアと北海道のつきあい方」より)

張 相 律さん

中国の経済事情と北海道のビジネス
チャンス及び課題 **2**

日本自治 ACADEMY 事業紹介 **4**

台湾訪問事業

留学生との懇談会

第2回「環境未来都市」構想推進国際フォーラム 2nd International Forum on the "FutureCity" Initiative



環境未来都市構想推進国際フォーラム(下川町) 今年2月16日、内閣官房・内閣府の主催による同フォーラムが開かれ、国内外から多くの方が下川町を訪れました。当日は全国から選定された11の環境未来都市や、諸外国の先進的な取組が紹介され、地域の環境資源などを最大限生かした構想の実現について積極的な議論が交わされました。(写真:坂本内閣府副大臣をはじめフォーラムに招聘された皆さん)

[写真は下川町役場提供]

日本自治ACADEMYでは、「アジア地域との結びつきをより深めるために」をテーマとして、2008年からフォーラム『アジアと北海道のつきあい方』を開催し、今回で5度目となります。講演いただいた張相律さんは日本と中国の架け橋として、北海道で幅広い業務を展開しております。

「中国の経済事情と北海道のビジネスチャンス及び課題」

2011年、中国のGDPは日本を超えて世界第2位となりました。名目GDP(2011年)でいうと、中国は8兆2502億ドル、日本は5兆8672億ドルです。1位のアメリカは15兆940億ドルです。アメリカに追いつくにはまだ十年ぐらひは必要だといわれています。ちなみに、インドは1兆9467億ドルで中国の2004年のGDPと同じくらいで、インドと中国は十年ぐらひ差があります。最近、インドを含めて東南アジアは注目を浴びていますので、インドの数値も頭に入れておいてください。

中国の自動車生産台数は約1800万台(2011年)を超えました。アメリカと日本は約800万台、インドは約400万台です。また、中国の自動車保有台数はこの15年ぐらひかけて伸びてきて、現在約1億600万台といわれています。中国の人口は約14億人ですので、13・7人に1台です。日本は1・7人に1台ですから、まだ日本の10分の1以下ですね。ですから、これから今の3倍伸びて、日本の3分の1くらいになるとしても、約2億台の自動車为中国で売れることになるので、世界の自動車メーカー

はこぞつて中国に行つて勝負をかけています。

中国のワイン事情についてですが、この数年すくく伸びていまして、国内販売上は61億ドル(2011年)で1年で36・3%の伸びです。輸入額は12億7千万ドルです。これはボトルワインだけのものです。中国国内の生産量も11億5690万リットルになりました。日本の生産量は8億リットルです。日本を超えて、今だいたいオーストラリアと同じくらいの生産量となっています。

携帯電話については、中国では当たり前のようになっています。日

本は固定電話が普及して、そして公衆電話が普及し、携帯電話となりましたが、中国では、固定電話と公衆電話はほとんど普及せず、直接携帯電話となっています。2012年の1年間で1億1800万人も増加しました。携帯のインターネットユーザー数も7億5千万人です。ツイッターのユーザー数はこのうちの48・7%で、ツイッターをしている確率は日本よりも中国の方が高くなっています。

次に中国の観光についてですが、中国から海外へ出る観光客数は2012年が7700万人でした。2011年は7000万人です。中国の沿岸部の方からの伸び率はだんだん減っていますが、西安とか鄭州などの中部地域は40%以上の増加となっています。ただ、7700万人の人が海外に出ているといつても、その内訳をみると、香港とマカオがそのうちの65%を占めています。また価格競争も激しくて一人当たりの平均利益も2000円程度ですが、マーケット自体はどんどん大きくなつてきています。

訪日中国人旅行者数については、2011年は100万人を超えました。2



㈱北海道チャイナワーク 張 相 律さん
代表取締役

011年は震災があり、その前年は141万人です。ずっと伸びてきていて、3年後には200万人と私自身思っていました。震災が起きまして、また去年は尖閣諸島の問題で3、4年前に戻った感じがしています。

北海道に来る中国人についてもピークが2010年の13500人です。今日本では観光庁がビジットジャパンというところで2020年までに2500万人という明確な目標を掲げています。たとえば訪日中国人でみると、北海道は日本全体の1割ぐらいのシェアを占めているので、それで計算すると日本が2500万人という目標を達成した時には、北海道には250万人ぐらいの観光客が来るのではないかと思っています。今、75万人ぐらいなので3倍になるということで期待をしているところです。

北海道の強みは、環境、観光、食品、健康、レジャーだと思っています。私は北海道の環境産業を戦略の中心におくことが非常に大事なことだと思っています。環境では常に北海道が先端を走っているというイメージを作らなけ

ればならないですね。たとえば、太陽光や風力発電などのクリーンエネルギーの推進です。これで電力の何十%を補うという問題ではなくて、5%でも10%でもいいんです。誰が見ても北海道が環境を大事にしているということが伝わればいいんです。観光客が来て、太陽光や風力発電を見て、「さすが北海道は環境に力を入れているんだな」「北海道はもっと良くなるんだろな」と思ってくれることです。また、北海道のタクシーをすべて電気自動車にする。みんな宣伝してくれますよ。まず、環境面で目に見えるものをもっと強化することが大事です。

観光については戦略の中心におくとも目玉産業にする。すでに北海道の観光消費総額は1兆3千億円ですが大部分は国内で、外国はまだ十分の一くらいです。これが伸びる可能性が最も大きい。今の75万人が3倍になると250万人です。外国人の消費は大きいですから消費額は10倍くらいになります。そうすると今の道民の消費額と同じくらいになります。毎年北海道に250万人の人が来てくれたら、その宣伝力はすごいものにな

ります。

それから食品ですね。時々北海道のものが中国でたくさん売れるというような報道がなされますが、実際は中国ではほとんど売れていません。売れているのはごく一部の鮭などでほとんどがテスト販売です。今の関税や、中国の一人当たりの収入、為替水準などを考えると、売れる状況ではありません。日本で千円で販売するものが、中国に持つていくと通関、中国の代理店、卸、小売り全部通していくと、日本の値段の3、4倍になります。中国人にはなかなか手が出ない。中国人の収入が今から倍になって、差が半分に縮まりますし、為替がまた40%変わつてくると日本より安く売れるはずですが。その頃になると、中国で爆発的に売れるようになります。同じ物が、中国の国内商品の3倍くらいになった時には北海道の物がすごく売れるようになります。その方向に行くことは間違いありません。

また、観光客が250万人来て海外で宣伝してくれる頃になると、インターネット販売が普通に行われるようになると思います。十年後ですね。実

際、今、ヤマト運輸と楽天は沖縄経由でネットのテスト販売をスタートしました。これが本格的になるとこの流れは一気にいくと思います。

健康産業にも注目しています。観光とメディカルの融合です。観光に来て健康診断をする。長期療養をする。治療をする。これからそういうことが増えていくと思います。機能性健康食品にも注目してしまっていて、我が社では、玄米酵素の輸出のお手伝いをしています。大豆から玄米からすべて北海道の材料です。北海道の素材はものすごく価値があるので、これからこの素材を求めて、中国の健康食品の会社が進出してくる可能性もあると考えています。

レジャー産業ですが、北海道は空気はいいし、水もいい。生活しやすいです。しかも四季がはっきりしている。春は花、夏は海、ゴルフ、キャンプ、秋は紅葉、温泉、冬はスキー、そしてほとんどが1時間圏内で全部楽しめます。非常に安いお金で、高い質の生活を送れます。このような自然を満喫する北海道のライフスタイル、これを北海道の皆さんが確立して発信する。そのラ

イフスタイルを求めて、北海道に移住したいという人が日本国内からも海外からも増えてくると思います。

そのためには、健康や環境、観光などを束ねた明確な戦略がほしいですね。日本人はゴミの捨て方や分別はすごく徹底していますね。そのぐらい戦略を徹底することです。予算を増やすこと、ライフスタイルを確立することも必要です。また、ホテルや飲食店などにリンク付けをすること。それから、外国人の人材も不足しているの、これにも対処していかなければなりません。最後まで北海道でがんばりますので応援よろしくお願いします。

(講師プロフィール) 張相律さん。株式会社北海道チャイナワーク代表取締役。北大卒業後、札幌で起業。北海道チャイナワークは、札幌駅前通りに事務所をおき、中国とのビジネスのバックアップや、中国からの視察・商談会のサポートのほか、中国へのプロモーション、中国語圏観光客の受入、外国人人材の活用をサポートなど日本と中国の架け橋として、幅広い業務を行っている。

日本自治ACADEMYでは2012年度において、フォーラムをはじめとする各種事業を行っておりますが、その実施事業について紹介します。

台湾訪問事業

当ACADEMYでは、昨年(2012年)11月24～27日の日程で台湾を訪問しました。参加者は谷理事長、角井副理事長ほか計六名のメンバー。今回で2度目となる台湾訪問。今回は、台湾の東海岸に位置する地方自治体である宜蘭(イーラン)県と、台北市内にある台湾政府の外交部を訪問しました。



【林知事(右端)との懇談】

宜蘭(イーラン)県では、県立蘭陽博物館で館長以下幹部の方々から、博物館建設までの経緯や運営上の課題などについてお話を伺うとともに、県庁では林知事と面談しました。

また、台湾外交部では、職員の皆さんと親しく懇談させていただいたほか、各種施設の訪問・見学など盛りだくさんの内容となりました。

留学生との懇談会

昨年7月に、北海道大学留学生と当ACADEMY会員との懇談会を開催しました。留学生の王磊(オウ・ライ)さん、フェブリナ・ナタリアさん、デボン・ダブリンさん、留学生のお世話役の北海道大学サステイナビリティ学教育研究センターの田中さんほか、十数名の方が参加しました。

当日はフードコーディネーターとして活躍する貫田シェフにご協力をいただき、道産食材を活用した調理を留学生と会員が見学・体験しました。その後留学生の方から、北海道に留学した動機や現在取り組んでいることなどをお話しいただくとともに、参加者同士熱心に意見交換を行いました。

【編集後記】2月20日のアジアフォーラムから3ヶ月、寒い長い冬が過ぎ、ようやく春の暖かさを感じるようになってきました。カレンダーを見るともう5月半ばです。急いで新年度の準備を進めないかと少々焦っています。◆今回のフリーペーパーの表紙は下川町にて2月開催された環境未来都市国際フォーラムを紹介させていただきました。2012年度実施事業のうち2012年7月北大の留学生と貫田シェフの道産食材料理を囲んでアカデミー会員との交流会、2012年11月台湾訪問事業、2013年2月アジアフォーラムでのチャイナワークの張さんの講演要旨を掲載しました。それぞれの事業にご協力下さいました皆さんに誌面を借りて心よりお礼申し上げます。(Y・K)



【貫田シェフ(後列中央)と留学生(左端及び左から3人目と4人目)を囲んでの記念撮影】